三陸の海 汚させぬ

原発事故で盛岡のエスイーシー

必死の水流出阻止 薬剤注入 技術で貢献

「汚染水流出抑止に貢献でき、従業員に感謝している」と語る柴田茂社長

世界を震撼させた福島第1原発事故。高濃度の放射性物質を含む汚染水の海への流出食い止めに、本県の土木業者が貢献した。盛岡市肴町のエスイーシー（社員13人）の柴田茂社長(58)と社員計6人は今月、2号機取水口付近で土壌の隙間を埋める薬剤の注入に当たった。「仕事ではなく任務」。見えない放射性物質や余震の恐怖と闘いながら、必死の作業で海の汚染抑止に高い技術を発揮した。

「原発へ行く作業員を出してくれるだろうか」。5日、東京電力から依頼を受けた東京の親会社から柴田社長に電話があった。

「このままでは福島だけでなく、三陸の海も汚染されるかもしれない。これは使命だ」。自身に迷いはなかったが、被ばく覚悟の作業を社員に無理強いできない。それでも「社長が行くならおれも」と5人が名乗り出てくれた。

作業は6～9日と14、15日の2度、防護服とマスクに身を包み関連業者の計約60人で実施。6日からは取水口周辺の立て坑付近の亀裂から海へ流れていた汚染水を止めるため周りに穴を掘り、「水ガラス」と呼ばれる薬剤を注入。14日からは流出経路とみられる周辺の地盤にも注入した。

原発内は建物が大きく壊れ、がれきが散乱。原子炉建屋から上る煙も見えた。爆撃を受けたような光景なのに、14日は道路脇の桜並木が満開。「映画の世界なんじゃないか」。どうしても現実感を持てなかった。

浴びる放射線量の制限から作業は1日3時間。注入技術は下水道やトンネルの工事で自信があったが「放射線は大丈夫か。爆発が起きたら、余震で津波が来たら、逃げられるか」と不安が頭を離れない。わずかな時間でも汗まみれになった。

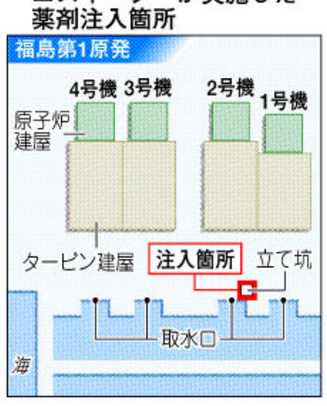
それでも作業を成し遂げられたのは「この作業で飯を食ってきた」プライドから。海への流出を抑え「今までで最高の仕事ができ、従業員に感謝している」と胸を張る。

作業後の測定と病院での検査でも異常はなかった。無事盛岡に戻った今、願うのは事故の一日も早い収束だ。

原発付近の町には、家や商店が形をとどめているのに人の姿だけがない。車に寄ってくる、首輪をつけた犬や家畜にも胸が痛んだ。

「今でも作業している人や、事故に関係ない動物が早く元の生活に戻ってほしい」そのために役立てるなら、いつでもまた原発へ駆けつけるつもりだ。

エスイーシーが実施した薬剤注入箇所



群馬で震度4

27日午後7時27分ごろ、群馬県で震度4の地震があった。気象庁によると、震源地は長野県北部で、震源の深さは約20キロ。マグニチュード（M）4・5と推定される。

核燃料工場でウラン漏えい 神奈川 環境に影響なし

神奈川県は27日、同県横須賀市の核燃料加工会社「グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン」で25日、工場のウラン管理区域にある放射性廃棄物貯蔵場のドラム缶（200リットル）から微量のウランを含む油128グラムが漏れたと発表した。

検出されたウランは1万1千グラムで、従業員に被ばくやけがはなく、周辺環境に影響もなかったとしている。県は28日にグ社を立ち入り調査する。

県やグ社によると、漏えいが見つかったのは25日午後3時25分ごろ。ドラム缶には金属類などの不燃物が入っており、何らかの原因で底に開いた微小な穴から油が漏れたらしい。

3人が刺され 男女2人死亡 大阪のアパート

27日午前2時35分ごろ、大阪市都島区都島本通3の12の19のアパートから「叫び声が聞こえ、ドアを開けたら廊下に人が倒れていた」と110番があった。都島署員が駆け付けると、刺し傷のある男女2人が死亡し、男性1人が重傷を負っていた。府警は殺人と殺人未遂事件として捜査本部を設置した。

府警捜査1課によると、通報者は「男が何かを振り回している」と説明。現場で凶器は見つかっておらず、男が3人を襲った後、逃走したとみて行方を追っている。同課によると、死亡したのは2階で同居する職業不詳大西慶知さん(44)と下村優香さん(39)。

ニュースファイル

◆住居侵入と窃盗容疑で逮捕 盛岡東署は27日、住居侵入と窃盗の疑いで滝沢村滝沢字後268の1227、職業不詳佐々木駿容疑者(26)を逮捕した。

逮捕容疑は3月29日午後11時から同31日午前7時30分ごろまでの間、盛岡市内の男性会社員(49)宅に侵入し、現金1万数千円とゲーム機2台など（時価計1万数千円相当）を盗んだ疑い。

◆ごみ収集車荷台から出火 27日午後5時15分ごろ、奥州市前沢区平小路の市道を走行中のごみ収集車＝同市前沢区、鈴木商会所有＝の荷台から出火。収集車は不燃ごみを運搬中で、荷台内のスプレー缶2本が焼けていた。原因調査中。（水沢署調べ）

ありがたい でも不安

義援金申請 宮古で開始 被災者の思い複雑

宮古で始まった義援金申請の受け付け。多くの被災者が順番を待った＝27日午後1時、宮古市・赤前小

宮古市の東日本大震災の被災世帯を対象にした義援金と生活再建支援金の給付申請が27日、市内の避難所でスタートした。手続きを終えた市民は「ありがたいけど、不安は消えない」と複雑な表情をのぞかせた。

同市赤前の赤前小体育館では、午後1時の受け付け開始前から30人ほどが集まり、罹災（りさい）証明書など必要書類を手に順番を待った。

義援金は死亡1人当たりと住宅全壊が各50万円、半壊が25万円。住宅の被害程度に応じて支給される生活再建支援金は全壊と解体が各100万円、大規模半壊50万円。さらに再建方法により最大200万円が加算される。

自宅が流され、赤前小体育館で生活する柳沢秀平さん(79)は義援金（50万円）と同支援金（100万円）を申請。妻恵子さん(76)は「生活の足しにはなるが、今後を考えると心配ばかり」と表情を曇らせる。

店舗兼住宅が被災した同市赤前の平井巨介さん(29)も「家も職場も失った。この額でどの程度の生活をしていけばいいか、かなり不安が残る」と将来設計を立てられないでいる。

同市では、来月2日まで主な避難所で窓口を開設。同3日以降は市役所で受け付ける。義援金が申請から2週間、生活再建支援金は1カ月前後で指定口座に振り込まれる予定。

東北新幹線また止まる 栃木でトラブル

27日午後、東北新幹線が架線切断と停電のため2回にわたりストップ。上下計15本が最大約50分遅れ、約3800人に影響が出た。

東北新幹線は29日に新青森―東京の全線で運転を再開する予定だが、仙台―東京の直通運転が再開した25日も3回の停電でダイヤが大きく乱れたばかり。

栃木県小山市付近で架線の一種「保護線」が切れているのが見つかり、午後2時10分ごろ、宇都宮―大宮の上下線で運転を見合わせた。

復旧作業を終え、午後2時半すぎに運転を再開したが、午後3時25分ごろには、風で飛んできた農業用とみられるテープが架線に接触したためショート停電。小山―大宮の上下線が約40分間ストップした。

JRによると、保護線は漏電が起きた場合などにトラブルを検知する役目があり、普段は電気が流れていない。電柱の取り付け部分が摩耗していたとみられる。25日の停電も、保護線がたるんで垂れ下がったのが原因だった。

「建物もがれきも撤去」を示す赤色の旗を設置した自宅を見つめる三浦雅幸さん（右）＝釜石市鵜住居町

がれき撤去に3色旗

釜石市、市民の意向確認

釜石市は27日、東日本大震災で発生したがれきを撤去する際、住民の希望を示す3色の旗の配布をスタートした。所有者の意向が一目で分かり、作業の迅速化につなげる。宮城県内で既に実施しているが、県内では初の取り組み。

旗は「建物もがれきも撤去したい」を示す赤、「建物は残してがれきのみ撤去したい」を示す黄、「手をつけないでほしい」を示す緑の3色。名前と住所を記入し、一緒に配布されるさおか建物の軒下などに直接くくりつける。

午前9時から同市鈴子町の災害対策本部前で配布が始まると、市民が次々に訪れ、職員の説明を聞いて旗を選択していた。

同市鵜住居町の三浦雅幸さん(56)、ふち子さん(52)夫妻は赤色を選択。築15年の自宅は津波で1階が完全に流失し、2階は約700メートル流された。室内には家財道具が残っており立ち会いでの撤去を希望した。

ふち子さんは「義母から受け継いだ着物も残したまま。アルバムや子どもたちの思い出の品がたくさん詰まった家なので、撤去時に大切なものを取り出したい」と語った。

市によると、3千棟以上の家屋が半壊以上。全てのがれきを撤去するのに少なくとも2～3カ月かかる見込み。

発見遺体は住職と判明 遠野・寺全焼火災

大矢 慈光さん

遠野市大工町の大慈寺と隣接の住家などが全焼し、焼け跡から遺体が見つかった14日の火災で、遠野署の調べで27日、遺体は同寺の住職大矢慈光さん(81)と判明した。

同署はDNA鑑定などから大矢さんと確認した。死因は熱性ショック。燃え方が激しい住家の寝室が火元とみられる。

高橋 暁氏（たかはし・さとる＝元県立中央病院副院長）26日午後2時55分、急性心筋梗塞のため盛岡市内の病院で死去、81歳。盛岡市出身。自宅は盛岡市加賀野1の7の39。火葬は29日午前10時から矢巾町白沢の町営矢巾斎苑、葬儀は29日午後1時半から盛岡市愛宕町のメモリアルホールもりおかで。喪主は妻真子（あつこ）さん。

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。